

第5回泉大津市公共施設等適正配置基本計画検討委員会 議事録

日 時	平成28年12月27日(火) 午前10時から午前11時
場 所	泉大津市職員会館3階 大会議室
出席者	○京都大学大学院：古阪秀三委員長 ○関西大学大学院：柴健次副委員長 ○立命館大学：吉田友彦副委員長 ○池田泉州銀行：米田大造委員 ○公募市民：新子美奈子委員 ○公募市民：釜下育久委員 ○公募団体代表者：木下晶子委員
事務局	○総務課：吉田総務部長・橋本課長・関根補佐・岩住施設整備担当 ○株式会社オリエンタルコンサルタンツ：中野秀俊・富安浩・高橋千佳
会議次第	1 泉大津市公共施設等適正配置基本計画（3～4章素案）について 2 その他
会議資料	1 泉大津市公共施設等適正配置基本計画（3～4章 概要版）

議 事

【1開会】

事務局

定刻となりましたので、只今から、第5回泉大津市公共施設等適正配置基本計画検討委員会を開催させていただきます。皆様方におかれましては、ご多用のところ本委員会にご出席いただきまして、厚くお礼申し上げます。本日は、委員7名のうち、7名全員のご出席でございます。本市公共施設等適正配置基本計画検討委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本委員会が成立しておりますことをご報告いたします。なお、本委員会は、公開とさせていただきます。また、議事録作成のための録音及び写真の撮影、議事録の公開につきまして、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

【2部長挨拶】

事務局

それでは、本委員会の開催にあたりまして、総務部長の吉田よりご挨拶申し上げます。

総務部長

総務部長の吉田でございます。改めましておはようございます。本日は年末押し迫る中、季節がらご多忙な所、並びに、お足下が悪い中ご出席頂きましてありがとうございます。いよいよ本検討委員会も第5回目ということで、中盤から終盤と大詰めの段階になって参りました。本日もご検討頂く内容、3章、4章とご案内の通りでございますが、3章につきましては用途別に見

ました各施設について多角的に見た検討とその内容、4章につきましてはその検討結果を踏まえた適正配置計画、いわゆる本論で肝の部分でございます。限られた時間ではございますが十分にご審議頂きまして、忌憚のないご意見を多数頂いた上で計画の策定に努めて参りたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

【3紹介】

事務局

それでは、本日の資料確認をさせていただきます。本日、配布しております資料は、「配席図」でございます。また、事前配布資料としまして、「次第」「資料1 泉大津市公共施設等適正配置基本計画（3～4章 概要版）」でございます。お手元でございますでしょうか。続きまして、市の関係職員をご紹介します。吉田総務部長でございます。橋本総務課長でございます。関根総務課長補佐でございます。最後に、わたくし、総務課の岩住でございます。よろしくお願ひいたします。それでは、本日の議事次第に従いまして、議事を進めて参りたいと存じます。古阪委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【4議事】

委員長

それでは早速議題に入ります。今日は先ほどおっしゃられたように、3章では泉大津市の公共施設の評価の方法、4章では施設を具体的にどうするか、という一定の考え方が記載されており、この2つの章の概要をお聞きして審議を進めます。次々回がいよいよ計画の承認となり、特に次回が一番重要な議論になります。今後、頂いた意見を踏まえ検討して頂ける、というかまえになっていきますので忌憚のないご意見を頂ければと思います。それでは議案1、3～4章素案について、まとめて事務局より説明を頂きます。

〔議題1 泉大津市公共施設等適正配置基本計画（3～4章素案）について〕

事務局

[資料1について説明]

委員長

どうもありがとうございました。一気にご説明頂きましたが、こちらの資料は事前に配布されているのでしょうか。

事務局

事前配布しております。

委員長

ある種の数値に置き換えて、機能や建物の状態を評価されましたが、一番重要なことはどのような方法で評価をしたかです。それは後でお答え頂くとして、評価を5段階で行った結果や、施設の在り方について市民の皆さんの意見を聞きながら検討

をしていくわけです。定量的な評価となりますが、実際に利用されている目線と評価結果では異なる感覚の場合もあります。例えば、皆さんがよく利用している市庁舎は、既に耐震補強を行っておりますが、利用していて様々な感覚をお持ちだと思います。実際に利用している方の意見がとても重要ですので、市民の皆さんからのご意見を頂ければと思います。まずは、施設評価の考え方についてももう少し説明を頂けますか。

事務局 施設評価を検討していく上で、最初に、建物という視点が必要であると考えました。耐震状況だけで捉えるのではなく、老朽、劣化状況など、1つの指標だけではなく、複数の点から評価しました。さらには、建物の状態だけで施設を評価するのではなく、機能という視点も必要であると考え、経済性、利活用度を指標とし、面積当たり、コスト当り、利用者当りという複数の項目を用いて評価しました。もう一つは、アクセス評価の視点としました。本市はコンパクトであり、どの施設にもアクセスしやすいと実感されているかと思いますが、数値的に評価して施設を捉えました。

委員長 これは割と考えられていて良いと思いますが、実際に評価したのは市の職員ですか。特に、劣化度となると、かなり専門的な確認が必要だと思います。

事務局 こちらの作業は、本市とコンサルタントの方で検討し、施設評価を行っております。劣化状況の確認はコンサルタントに依頼し、建築の専門の方が施設を確認しております。ただし、全ての施設を確認したわけではなく、一定の条件でスクリーニングを行い、必要な施設に絞って確認の上、評価しております。

委員長 それでは3・4章について早速ご意見、ご質問お願いします。先ほどの学校の建物の関連ですが、例えば上條小学校のように1施設に複数棟ある施設はどのように評価をされているのでしょうか。また、同じく上條小学校のように校舎の一部を増築した、というような施設はどのような評価をしているのですか。

事務局 上條小学校のように複数棟を有している場合は、一つの施設として捉え、3棟があれば、その平均値により評価しております。また、校舎の一部を増築しているような事例は特殊ではありますが、主要棟の築年数や劣化状態について評価の対象とし、増築部分についての細かな内容までは反映しておりません。

委員 施設評価について、津波の被害は考慮されているのでしょうか。幼稚園が統合されるのであれば、それは安全な方へ移動させるということなのでしょうか。

事務局 評価内容を検討する過程では考えましたが、建物の評価については、建物の耐震や劣化という指標だけですので、津波被害と

委員長	<p>いう観点では評価しておりません。</p> <p>公共施設は、津波の避難場所としてどうかということですが、今後、30年間で大地震の発生が予想されており、津波の発生はこの計画期間を超えるかも知れません。本計画内においては津波という観点は考慮されていませんが、泉大津市としてはそれを念頭に置いた上で検討を進めていかないといけないと思います。津波が発生した場合を想定した上で、廃止すべき施設、維持すべき施設と在り方は様々だと思います。津波の想定については、政府も公式発表していることから、これらを踏まえた検討をお願いします。</p>
委員	<p>22 ページの生涯学習施設グループについて質問です。「公民館、勤労青少年ホーム、図書館については、利用目的や機能が共通しており」という一文がありますが、市民目線からすると図書館が入ることに違和感があります。どのような利用目的や機能が共通しているのかお聞かせください。</p>
事務局	<p>生涯学習施設グループとして検討を進めていく中で、市民アンケートにもありましたが、公民館の利用目的は学習の場であるといった意見が多かったとの結果を踏まえ図書館、公民館、勤労青少年ホームの利用目的が共通しているという整理を行いました。</p>
委員	<p>その辺の捉え方が利用している市民とは少し離れていると思います。公民館、勤労青少年ホームは50代から70代の方がクラブ活動で盛んに利用されており、図書館はグループでの活動はあまり盛んではないと思います。使用目的が異なる部分がありますので、分けて考えて頂きたいと思います。また、本計画のとりまとめは総務課がされていると思いますが、他の課とのすり合わせをされているのでしょうか。今まで検討委員会に所管課が同席されたことは無く、以前、市長が少しの時間だけ同席されただけです。ご多忙なのでそれは仕方ないことだと思いますが、市としてはかなり大切な会議だと思うので、担当課とのすり合わせは必要だと思います。</p>
事務局	<p>他の課と総務課との調整のため、各施設グループの会議を行ってきており、生涯学習施設であれば生涯学習課や関連している所管課が出席し、総務課と共に協議、検討を行ってきました。お示ししている内容についても所管課と十分に調整、議論を重ねた上でお示ししておりますことをご理解ください。</p>
委員	<p>そうであれば、市民としては図書館とそのような活動の場である公民館がどのような形で複合化をするのかがすごく興味があります。新しい形で次の時代にあったようなものになる可能性もありますので、少し具体的な例をお示し頂けたら非常にあ</p>

委員長 りがたいと思います。
これまでの公共施設はそれぞれの施設に機能が1つの単純な施設でしたが、複合化に向け社会もどんどん変わってきており、我々、建築の専門家も意識を相当変えないといけません。泉大津市の人口バランスもありますし、子供たちの育て方、お年寄りの健康に対する体制なども考慮し、今ある建物をどう複合化するか、将来的にはどのような機能をもたせるかを検討していかなければいけません。先ほどの意見は非常に良い質問だと思います。このことは市の中でも検討されていると思いますし、常にお考え頂きたいと思います。当初の委員会で申し上げた通り、市長も参加されるのが望ましく、これから多くの事柄が多様化していくなかで、様々な検討をしていかなければなりません。

委員 33 ページ、その他の全市施設というところですが、地域安全センターは初めて聞く施設なのでWebで調べましたが、今月開所した施設とありましたが前からある施設でしょうか。

事務局 前からある施設であり、市役所の近くに設置されており、防犯に関する打合せや会議が開かれている施設です。

委員 市民活動支援センターでは「市民活動団体への活動支援や情報提供の場であり、市民が主体となったまちづくりのさらなる推進に向け、他施設との複合化による機能向上を図る必要があります」という一文がありますが、他施設との複合化によってどのような機能向上があるのかお示してください。

事務局 他施設の複合化、多機能化の考え方について、今までは1つの施設に1つの機能でしたが、これからの公共施設は1つの施設に複数の機能を持たせていくような考え方となります。例えば、長寿園の例では、高齢の方だけが利用するのではなく、お子さんを連れのお母さん方も利用されることによって、今までなかった市民交流が図れるというものです。このことにより、機能の向上が見込まれます。さらには、同じコストで利用率が上がっていくことで機能が向上するという考え方です。

委員 複合化による機能の向上は必要だと思いますが、どのような機能を考えているのですか。ポイントが絞れていないと複合化を実施しても効率的に機能しない場合が考えられるため、施設の組み合わせが重要になると思います。複合化についてはもう少し具体的な部分がほしいというのが市民としての意見です。先ほどの図書館の意見とも似通っていますが、市民の目線は行政と異なっている部分がありますので、具体的な面も議論頂いて、市民がイメージしやすいような所も、今まで以上に付け加えて頂けたらと思います。

委員長 この委員会は、各施設の複合化など具体的な中身を議論する場ではありません。どのように施設を複合化するのが良いのかは正直、私も判断が出来ません。今後、具体的な中身については、この計画を踏まえ、行政と市民が施設をどうしていったらいいかを本格的に議論をしていくべきと思います。

事務局 委員長がおっしゃったように、本計画では、様々な視点から施設を検討したことを踏まえ、施設の在り方について、いつの時期にどのようなことをしていくかを示していきます。ただし、この計画を策定したからといって複合化が進んでいくというわけではなく、個別施設について具体的に検討していく必要があります。また、必要に応じて利用者である市民の皆さんからご意見を伺う場は必要であると考えております。

委員 29 ページにある市民プール施設の穴師プールの今後の方向性で「多機能化に向けた地域開放を検討」とありますが、現地での地域開放はなかなか難しいと思います。どのようなイメージか教えてください。

事務局 現在、穴師プールは、近くの小学校のみが利用しているという状況です。引き続き、学校プールとして利用継続し、更新時期に更衣室等を建替えの上、市民の方が使えるように整備し、地域開放を検討していくという考え方です。

副委員長 この計画策定の出発点は財政的な観点から現状のままではお金が不足し、建替えが出来ないということだったかと思います。今、示された具体的な適正配置計画が、実行可能かといった財政的な検討はこの後行われるのでしょうか。それとも具体的には示されておりませんが検討済みなののでしょうか。もし、検討済みであるならば、当初不足しているとしていた額がどれぐらいこの計画によって縮小したのでしょうか。

事務局 この計画策定は、大きな財政問題をはらんでいるというところから出発しました。今後の施設の在り方を本計画において整理し、それを実際に実行する段にあたって、その時々々の財政状況、財政の裏付けというものに応じて時期を確定していく、という形になります。本計画では、各計画期間において建替えや改修時期を大まかに落とし込んでいますが、それが実施可能な時期かというところとそうではない場合も多分にあります。また、全体面積の15%削減ということにつきましても、それだけで財政状況が改善されるという担保があるとは言い切れませんので、建物の更新を進める中でその時の財政状況等に応じて実行に移していくというのが実際の姿になると思います。

委員長 要は計画通りに行った場合の試算は求められるが、具体的に実施する際は予算によるということですね。

副委員長

いよいよ答申が近づいてきたということで踏み込んだ内容をご説明頂いたと思っております。公営住宅はもちろんストック活用計画の中で決まっていることが相当ありますが、廃止ということで総戸数が減るのかを教えてくださいたいです。教育支援センターは廃止して複合化するとありますが、廃止、統合、複合化というのは当地での利用がなくなるというものだと思うのですが、廃止して統合、複合化というのは少し分かりにくいように感じます。廃止、統合、複合化はそれぞれ区別されるものであり、組み合わせるものではないという気がします。その他の適正配置計画をみても複合化と廃止の組み合わせが1つもないので少し気になりました。全体としては廃止、統合、複合化という順になくなっていくのか、一部なくなるものか、緩やかに機能が一部なくなるものか、その3段階について注目しています。この2つをお答えいただけますでしょうか。

事務局

まず、1点目ですが、市営住宅の廃止する施設については、元々、災害等があった際に一時的に建てた施設なので、そういった意味では廃止すると戸数は減ることになります。教育支援センターについては、図表では複合化、廃止としていますが、20ページの今後の方向性では「施設を廃止し、他施設への複合化により」ということで、機能だけは他の施設と複合化します。建物は古い小学校をそのまま使った施設で、耐震や、劣化状況が著しく悪くなっていますので、建物としては廃止するという考え方です。

副委員長

それであれば複合化1本ではないか、という気がします。機能が維持されて建物の廃止というのが少し分かりにくいと感じます。他の建物に機能が残るのであれば複合化とは言えないのではと思います。定義の問題なので全体的に検討して頂ければと思います。あと、勤労青少年ホームは廃止の方向とあるが、非常にアクセスは良いということで、都市計画の観点から立地の良い施設を廃止して行く際の跡地活用はどのように考えているのでしょうか。

事務局

現段階では、具体的な跡地活用について検討はできておりませんが、勤労青少年ホームは図書館及び2つの中学校と隣接しておりますので、それらを踏まえた跡地の利活用が望ましいと考えております。

副委員長

今の質問に関連して、20ページにおける教育支援センターの今後の方向性の「施設を廃止し、他施設への複合化により機能維持を図ります」という表現では、説明が分かりにくく、施設の機能を維持するのであれば、廃止するという表現は矛盾しているように感じます。施設というのはどういう意味で使ってい

るのでしょうか。建物はこういう施設を動かすための箱物にすぎません。自前でも良いし、借りてきても良いですが、建物それ自体の廃止というのと機能の廃止はきちんと分けた方がいいのではないのでしょうか。

事務局
委員長

本日のご意見を踏まえ、再度、検討していきたいと思います。これらは、「廃棄」と言うのが一般的ですね。それでは、これで3～4章の質疑については以上とします。さらに次回の委員会の中で、より具体的なことをご審議頂けたらと思います。続きまして議案2、その他について事務局よりご説明いただきます。

[議題2 その他]

事務局

今回は1月20日(金)15時からということで予定をしており、改めて開催通知等は送らせて頂きます。冒頭で部長からお話いたしました。本年は、計画をとりまとめていく段階となり色々ご意見、ご助言頂きましてありがとうございました。来年も引き続き、よろしくお願いします。

委員長

では今日の審議はこれで終わります。

【5 閉会】

事務局

古阪委員長、ありがとうございました。本日の議事録につきましては近日中に委員の皆様方へご送付させていただきますので、内容をご確認頂きますようによりしくお願い致します。それでは、これをもちまして第5回泉大津市公共施設等適正配置基本計画検討委員会を終了致します。本日はどうも、ありがとうございました。

以上



会議の様子